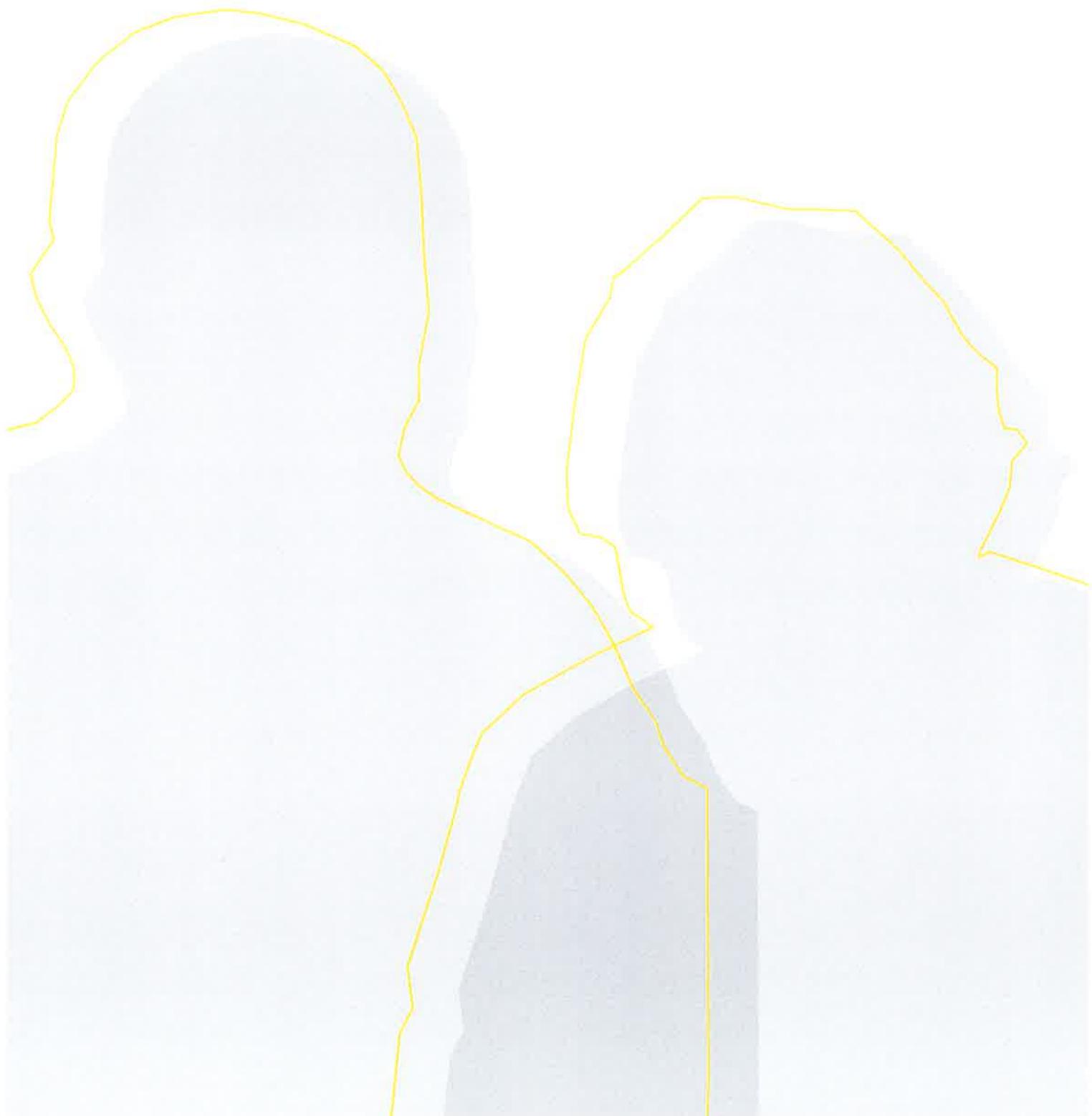


交差する視点

辻野精一・道北昭介

(デジタルアーカイブ)



ごあいさつ

このたび、「交差する視点 辻野精一・道北昭介」を開催する運びとなりました。昨今の新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、全国の博物館・美術館が休館や展覧会の中止を余儀なくされる事態となり、当館でも現在の時期は第35回国民文化祭・みやざき2020 第20回全国障害者芸術・文化祭みやざき大会関連事業を計画しておりましたが、延期が決定いたしました。このような状況のなかで、当館の所蔵品による特別企画ができないかと考え、本展の開催に至りました。

この特別企画は、「高鍋町美術館館蔵名品選展」(令和2年6月2日~8月30日)に続き、第2弾となります。藩政時代の文化が脈々と受け継がれてきた高鍋では、古くは安田李仲、秋月可山から、有田四郎、平原美夫と、伝承的かつ古典的な表現が継承されてきました。その一方で、革新的な表現を生み出している画家たちも存在します。

いずれも高鍋町出身の抽象画家である、1920(大正9)年生まれの辻野精一と 1930(昭和5)年生まれの道北昭介は、たった一度だけ 1978(昭和53)年に二人展を東京で開催している記録が残っています。本展が、40年以上前に交差した二人の視点を追想するように鑑賞できる機会となれば幸いです。

おわりに、本展の開催にあたりご協力いただきました出展作家のご家族の皆様および関係者の皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

令和2年10月24日
高鍋町美術館

Greeting

At this time, we are happy to announce the opening of the exhibition “Points of Intersection, Tsujino Seiichi and Michikita Shousuke.” Recently, due to the effects of the spread of COVID-19, museums and art institutions across the country have had no choice but to shut down and postpone or cancel exhibitions. The Takanabe Museum of Art as well had planned to hold the exhibitions “The 35th National Culture Festival: Miyazaki 2020,” and “The 20th Miyazaki National Arts and Culture Festival for Persons with Disabilities,” which we have decided to postpone to later dates. During these difficult circumstances, we considered putting together a special exhibition using works from our collection, and decided on this show.

This exhibition is a continuation of our previous exhibition “Famous works from the collection of the Takanabe Art Museum” (From February 6th to August 30th, 2020). In Takanabe, culture has been passed down since the feudal era; all the way back from Yasuda Richu, to Akizuki Kazan, Arita Shirou, and Hirahara Yoshio, traditional and classical forms of expression have been passed down through the years. On the other hand, there have also existed artists who have created new and innovative forms of expression in Takanabe.

Both of the oil painters in this exhibition are from Takanabe, Tsujino Seiichi born in 1920, and Michikita Shousuke born in 1930; however there is only one record of them ever exhibiting together, Tokyo in 1978. Having only intersected once before in Tokyo, We are happy to have the opportunity to bring the works together again, and provide another chance to appreciate these two artist’s work together in Takanabe.

Finally, we would like to take this chance to give thanks to the family and friends of the exhibiting artists, who collaborated with us to make this exhibition a reality.

October 24, 2020
Takanabe Museum of Art

謝辞

本展覧会を開催するにあたり、貴重な資料や情報を提供くださいました関係機関並びに関係者・所蔵家各位と、作品調査・文献調査等に際し、ご協力ご助言いただきました皆さんに深く感謝の意を表します。また、お名前は差し控えさせていただきましたが、本展覧会の実現のためにご尽力賜りました方々に、この場を借りて心からお礼申し上げます。

井上 和裕

大上 敏男

黒木 郁朝

座間 賢佑

坂元 金一

白岩 修

杉山 昭

田中 等

田中 隆吉

町立高鍋図書館

福富 健男

道北 淳朗

道北 善枝

美濃 力

宮崎県立図書館

宮崎県立美術館

渡邊 建記

(五十音順、敬称略)

凡例

- ・本紙は「交差する視点 辻野精一・道北昭介」(令和2年10月24日～11月29日 高鍋町美術館)の開催に際し出品された作品、映像内容およびそれらに関連する資料について収録している。
- ・作品リストは、作品番号(順路順)、作品名、作品名(英訳)、作家名、サイズ(縦×横cm)の順に表記した。
- ・出品作品は全て高鍋町美術館の所蔵品である。

目次

- 1 ごあいさつ
- 2 謝辞
- 凡例
- 3 目次
- 4 作品リスト
- 5 展示風景
- 6 「高鍋町出身の抽象画家・辻野精一と道北昭介について—収蔵品からの考察—」
 青井 美保
- 7 映像「オーラル・ヒストリー・アーカイブ」
 井上 和裕(喫茶モルゲン店主)
 福富 健男(文筆家・俳人)
 杉山 昭(画家)
- 8 年譜
 辻野 精一 年譜
 道北 昭介 年譜
- 9 西都・児湯ゆかりの抽象画家たち(図)

作品リスト

交差する視点 辻野精一・道北昭介

会期 | 2020.10.24（土） - 11.29（日）

主催 | 高鍋町美術館・高鍋町教育委員会・高鍋町

※ 作品番号は順路順の通し番号です。

交差する視点 辻野精一・道北昭介

一般・企画展示室

作品番号	作品名	Title of work	作家名	サイズ (縦×横・cm)
1	春だち NO.2	First Signs of Spring No. 2	辻野 精一	72.7×91.0
2	無題	Untitled	辻野 精一	72.7×92.0
3	天地創造	The Creation of Heaven and Earth	辻野 精一	112.0×145.5
4	遊目	Playful Eyes	辻野 精一	194.2×144.3
5	叢祠の住人	Shrine Dweller	辻野 精一	130.0×162.0
6	さかだち (A)	Standing on End (A)	辻野 精一	145.5×112.0
7	さかだち (B)	Standing on End (B)	辻野 精一	145.5×112.0
8	訴&願	Appeal and Hope	辻野 精一	162.0×130.0
9	無題	Untitled	辻野 精一	145.5×193.8
10	プリズム・・・14	Prism...14	辻野 精一	145.5×224.0
11	ピエロの終日	A Clown's Day	道北 昭介	162.0×130.0
12	跡 (赤)	Tracks (Red)	道北 昭介	81.0×61.0
13	無題	Untitled	道北 昭介	118.0×93.0
14	土の祭り	Festival of Earth	道北 昭介	119.0×93.0
15	無題	Untitled	道北 昭介	185.0×91.0(455.0)
16	土の祭り	Festival of Earth	道北 昭介	162.0×130.0
17	跡 (黄)	Tracks (Yellow)	道北 昭介	83.5×62.0
18	土の物語より蛾の舞 NO.1	From the Legend of Earth, The Moth's Dance No. 1	道北 昭介	162.0×130.0
19	海辺のファンタジー	Seaside Fantasy	道北 昭介	162.0×130.0
20	雲の世界	World of Clouds	道北 昭介	162.0×130.0

休憩室

1 映像

Movie

22分間

展示風景



高鍋町出身の抽象画家・辻野精一と道北昭介について—収蔵品からの考察—

青井 美保

(高鍋町美術館学芸員)

はじめに

1920 年生まれで、日日会(宮日総合美術展無鑑査による会)創設の場に臨んだ辻野精一と、1930 年生まれで、福岡の美術評論家たちから熱いまなざしを浴びた道北昭介。新感覚の絵画を模索した二人の表現は、今も輝き続けている。2020 年 10 月 24 日(土)~11 月 29 日(日)に高鍋町美術館企画展示室にて開催した「交差する視点 辻野精一・道北昭介」では、いずれも高鍋町出身で抽象画に取り組んだ辻野と道北の、幅 4m 超の大作を含む所蔵作品全 48 点のなかから 20 点を特別公開した。1978 年に一度だけ東京・銀座で実現した二人展に思いを馳せた、初企画である。

辻野については、当館に 37 点もの作品が所蔵されておりながら、これまで研究される機会はほとんどなかったと言える。数少ない美術評論家による辻野評は 1978 年に東亜画廊(福岡県福岡市)で開催された辻野精一個展での案内状に掲載された中村義一(当時宮崎大学教授・1929—)によるものである。一方で道北については、没後に開催された遺作展にあたり『道北昭介画集』が発行されている。この機会に、福富健男(文筆家・1936—)・石井一次(農業者・1931—2018)らによる熱心な調査が行われたことは、重要な意味を持った。また、同じく画集の冒頭に、谷口治達(美術評論家・1932—2013)による道北評が掲載されていることは、道北の広い交流関係を示し、核心に迫った内容となっている。逆にそれ以降、この二人が注目されることは無いに等しい。高鍋町に生まれ、抽象画に取り組んだ二人が、なにを想い、なにを描いていたのか。二人の相違点を浮かび上がらせることで、「地域の美術史」としての課題をいま一度見つめ直すことはできないだろうか。そのような考えで、本稿は、辻野精一と道北昭介の生涯にわたる表現の変遷を整理しながら、両者の画家としての性格を明らかにすることを目的としている。

1. 辻野精一

辻野が本格的に制作を始めたきっかけは、1953 年(当時 33 歳)に県庁職員絵画グループに入ったことである。1939 年(当時 19 歳)のころにはすでに画家を志望していたというが、家族の反対にあい断念、その後宮崎県庁に勤務といった経緯をたどっている。辻野の制作への取り組み方は、宮崎県内のアチャア画家(公募展などに作品を出品する画家たち)のそれに非常に近い。大学や団体などで特定の画家に師事するのではなく(辻野の場合は 1964 年からモダソアートに所属するが特定の画家に師事したとまでは断定できない)、宮崎県美術展や宮日総合美術展(現在のみやざき総合美術展)に出品することで研鑽を重ね、身の回りにいる画家たちの刺激や影響を受けて作品を制作する。世界の美術的動向や美術史などについての情報は、専ら画集や美術雑誌から吸収するといったところである。以下に、辻野の画業のなかで分岐点になったと考えられる出来事を挙げたい。

“宮崎神宮”という原風景

1972年(52歳)ごろから、辻野は伎楽面(ぎがくめん)シリーズに取り組んでいる。これは、辻野の母が宮崎神宮の近くに生まれ、幼少期より舞や面に親しみがあったことが背景にある。このシリーズでは、辻野は貝の粉を混入し、日本画を意識した作品づくりを行っている。辻野作品の多くに、面らしきものが描かれ、また晩年に辻野が和紙を使用した表現へと移行する様子からも、辻野は日本古来の特性をどのように画面に落とし込むかについて、生涯模索していたと言ってよい。

ジョアン・ミロの影響

辻野自筆の年譜¹によると、1982年(当時62歳)に「このころジョアン・ミロに心酔する」との記述がある。ジョアン・ミロ(1893-1983)は、スペイン・バルセロナ出身の画家である。人物や鳥などをデフォルメする作風や、原色を基調とした色使いなど、辻野の作風にはミロからの多くの影響が見受けられる。

瑛九の影響

1983年5月22日付け朝日新聞の記事²にて、辻野(当時63歳)は「瑛九に学び何年たっても腐らないよい絵を描き残したい」と発言している。瑛九(1911-1960)については、辻野作品の作風への直接的な影響を見受けることはできない。しかし辻野が制作において、瑛九に大きな影響を与えたシュルレアリズムを、ヒントとした可能性は考えられる。例えば「天地創造」(1978年・高鍋町美術館蔵)は、シュルレアリストのアンドレ・マッソン(1896-1987)やロベルト・マッタ(1911-2002)の作風を彷彿とさせる。瑛九より一つ年上で、交流は無かったにせよ青年期を共に宮崎で過ごした辻野にとって、シュルレアリズムに魅了され世界的に評価された瑛九への憧憬が少なからずあったのではないかだろうか。

以上、三つのポイントを踏まえたうえで、宮崎神宮を発端とした新しくも古風な一面と、ジョアン・ミロ(1893-1983)心酔を発端とした奔放で色彩豊かな一面がそれぞれに成熟していく、晩年にはそれらが融合した形で「床板スタイル/板屏風景」(画家・村井正誠《1905-1999》による記述)³に至ったと推測することが妥当であろう。

2. 道北紹介

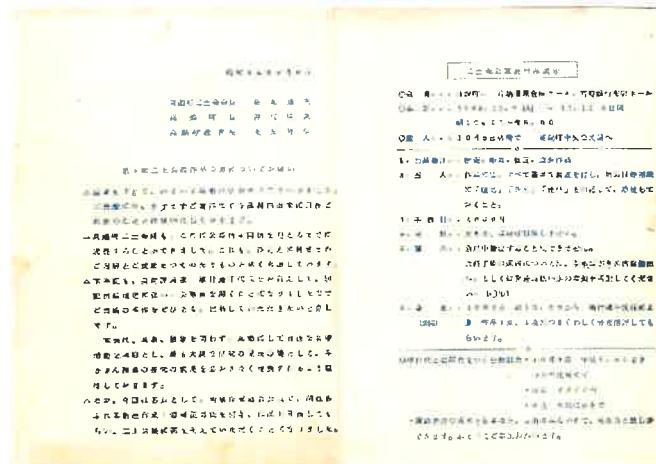
道北は1951年(当時21歳)に宮崎大学学芸学部2年課程を修了し、その後県内小中学校の教諭として務めた。本格的な制作は1958年(当時28歳)、新象作家協会に出品してからである。道北の場合は、県内の作家との交流がなかったわけではないが、他の県内作家と比較して異様に多いのは中央の作家たちとの交流、またはそれは画家に留まらず、農業評論家や生物学者など多岐にわたるところである。なお、1966年(当時36歳)に道北は、小学校を退職し、家業(つるや旅館)を継いでいる。そんな道北の画業のなかで分岐点となったと考えられる出来事を挙げたい。

福沢一郎に師事

道北が師事した画家・福沢一郎は、道北にとって「どのように描くか」の部分に大きな影響を与えたといつてよい。周知のとおり、シュルレアリスムと深い関わりがある福沢は、1924年の渡仏時にジョルジ・ヨーテ・キロ(1888-1978)やマックス・エルンスト(1891-1976)に影響を受けた作品を制作しており、帰国後もシュルレアリスムを紹介する活動を行っている。だが、道北がもっとも福沢から影響をうけたと考えられる一面は、社会批判的視点である。福沢のテーマが一貫して「人間」や「社会」であったため、福沢と出会った直後の作品「ピエロの終日」(1965年・高鍋町美術館蔵)は、同様のテーマを感じることができる。注目すべきは、そこをスタート地点として、道北が地域色豊かなテーマに発展させていったことであるが、それは後述する。

二土会

行動力をもって活動と制作を展開した福沢同様、道北も高鍋町を拠点として多様な活動を精力的にこなした。高鍋町内で独自の文化団体・二土会⁵を設立し、その第一回の公募展では、植村鷹千代(美術評論家・1911-1998)・幸寿(画家・1911-2003)・岩間正男(画家・1926-2013)を審査員として招聘したというから驚きである。二土会の活動は、道北が地方で九州現代美術の土壤を耕そうとした稀有な事例と言っても過言ではない。道北の活動はこれに留まらず、高鍋町文化協会・里の会・高鍋ユネスコ協会・日向ひょうすん坊共和国の設立と、美術分野に留まらない多様な団体の設立に携わった。これらの活動が道北作品の制作におけるインプット(ここでは情報や知識を取り込むの意)の部分に、関係があったことは想像に難くない。



資料 1

第4回二土会展作品公募についてお願い(田中等氏提供)



資料2

第4回二土会美術展作品目録(田中等氏提供)

土シリーズ

前述の多様な活動のなかで、道北の代表的なシリーズへと結実したのが、この土シリーズである。高鍋で生活する道北にとって、農業は非常に身近なものであった。1961年(当時31歳)、農業基本法が制定され、宮崎県は農業県の地位確立にむけて激動の時代を迎えた。1966年、親交のあった松丸志摩三(農業評論家・1907-1973)が高鍋町に移住した。また道北は、1973年(当時43歳)から、山下惣一(農村作家・1936-)と親交を深め、同年、だきとシリーズを、翌年から土シリーズを制作している。この影響について、道北昭介画集にて美術評論家の谷口治達(1932-2013)はこう語っている。

松丸との交際により道北の作品には何か一つバックボーンのようなものが通り、鑑賞者にはしたたかな主張を持つ画家の印象を与え始めていた。(道北昭介画集・1996年8月6日発行)⁶

また、だきとシリーズについて、道北はこう語っている。

やっぱり人間が自然の力の中でしか生きられないということ、それがいまはどうにもならない状態になってますね。しかし自然の中の人間の存在、生活への渴望それをダギトというテーマで表現してみたかったわけですね(西日本あすの百人・九州朝日放送報道部編・1974年発行)⁷

なお、「だきと」という表記については、道北は作品名として「だきと」の表記で発表しているが、『西日本あすの百人』では「ダギト」で統一して表記されている。これらは、「田祈祷」の訛り呼称であるため、本稿ではそれぞれ出典ママの表記とした。

以上、三つのポイントを踏まえると、1960年代前半はまず徹底的に抽象画という描き方に取り組み、そこに1960年代中盤に社会批判的視点が取り込まれ、1970年代に、地方の土着性をテーマとした時代へと移行していく、といった道北の作風の変遷を把握することができる。その

後、道北は 1980 年ごろから、「雲シリーズ」、「空隙」の連作、「不快な夏日」をはじめとした“暗鬱な”(谷口治達による記述)⁸作品へと展開された。

3. 関係性と共通点

ここまで両者の画業の変遷をたどると、画家として探求したもの、目指したもののが異なることが明白になる。そうしたときに、突如両者の年譜のなかに「昭和 53 年 櫻画廊(東京都)にて辻野精一・道北昭介二人展」という同一の文言が現れるのだ。一見まったく共通点のない二人にどのような背景があってそれが実現されたのだろうか。実は、二人の記録には、若干の相違が見られる。辻野の記録には、「櫻画廊(東京都)にて道北昭介と二人展。/東亜画廊(福岡市)にて個展。」⁹とあり、一方で、道北の記録には「櫻画廊(東京都)にて辻野精一と二人展。/東亜画廊(福岡市)にて辻野精一と二人展。」¹⁰とある。櫻画廊は、道北が東京での発表の場として、1971 年より度々個展を開催していた場所である。このことから、互いの個展に出し合うような形でこの年限りの二人展が実現したことが推測できる。道北善枝氏(道北昭介の長女)の記憶によると¹¹、辻野は度々道北のアトリエを訪ねてきていたという。瑛九についての言及もしかりだが、温厚な性格の辻野は、年齢の上下に関係なく、実力のある画家から吸収する姿勢を持っていたのではないだろうか。

日本古来の神秘を、シュルレアリズムの影響をもって展開した辻野精一。農民の精神性を、社会批判的視点で展開した道北昭介。いずれも題材には土着性が高く、表現方法に影響を受けた作家の余韻を残しながらも自身の描き方・テーマへと昇華させている。

二人展

辻野精一
道北昭介

1978 年 4 月 17 日(日)～22 日(金)
櫻画廊
・東京都
・個展

日本
国

辻野精一
道北昭介
二人展

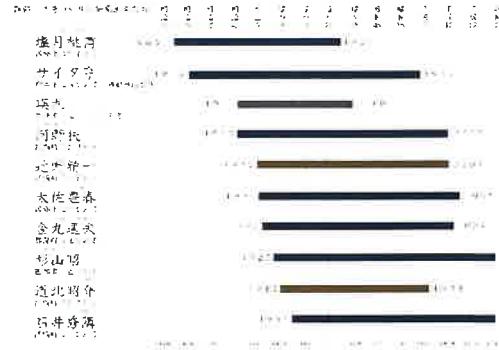


資料 3
1978 年二人展案内状(櫻画廊)

4. 昭和の西都市・児湯郡における抽象画家たちの動向

筆者は今回二人の画家に焦点を当て、自館の所蔵品から見る論考を展開したが、これをより俯瞰的に把握するためには、西都市・児湯郡の当時の動向を知る必要がある。そこで、資料 4 を参照されたい。第二次世界大戦が終結した 1945 年、辻野は 35 歳、道北は 25 歳であった。当時を知る杉山昭(画家・1927-)へのインタビュー¹²によると、戦後は油絵具が入手しづらい状況が続き、「潤沢に使用していたのは県内では塩月桃甫(1886-1954)くらい」との印象であったという。ここ高鍋町では、古くは高鍋藩の絵師・安田李仲(安田家八代・1830-1908)、秋月

可山(1867—1932)から、有田四郎(1885-1946)、平原美夫(1911-1975)と、伝承的かつ古典的な表現が見られた。地方では抽象の地位の獲得に躍進した時代であった。なかでも早い時期から社会批判的視点で描いたのが、太佐豊春(1921-2005)と道北昭介である。当時、この二人についての交流があったのかについてははっきりしていないが、生活拠点や活動内容からみるに、面識があってもおかしくはない。また、時を同じくして、1957年～1962年に福岡では九州派が名を馳せていた。熱気を帯びた活動は少なからず聞こえていただろう。文学者と交流をもつ取り組みや、九州派の理念の一つであった反東京の部分は、道北の歩んだ道からも垣間見ることができる。これは、ただの偶然というよりは、時代性によるものと言えるだろう。同じく九州派の理念である反芸術についてもその理念を彷彿とさせる作品についてのエピソードが残っているので、ここで紹介したい。あるとき道北は、畑を鋤で耕した土の塊を、紐で縛り¹³、さらにそれを石膏取りしたもの¹⁴、東京都内で開催された何らかの展覧会にて発表していると見られる。道北は、1975年に共通して反東京の要素を持つ「俗」と題した絵画作品を発表。この年は、道北が土シリーズを次々と制作した年でもある。この土シリーズとも関係性が深いことが推測される“土の塊”については、実物はおろかその記録写真も残っておらず、今後調査を進めたい課題の一つとなった。なぜならば、この作品は反東京と反芸術の双方に取り組んだ、道北の数少ない作品である可能性が高いからである。その作品を検証することによって、紐解くことのできる道北の思想があるに違いない。また、その時代性や熱意について考察できることが期待できる。



資料4
西都・児湯の抽象画家たち
(拡大図はp.27参照)

この点について会期終了後に黒木郁朝(版画家・1945-)より見解を聞くことができた。九州派の情報は聞こえてきたであろうし刺激は少なからず受けているだろう。しかし、表現の面では、岩間正男の影響が一番大きいとのことであった。¹⁵岩間もまた、道北が新象作家協会に入ることで出会った作家の一人である。記録によると、美術文化協会を脱退した岩間正男が、浅利篤(画家・1912-1999)らと、中心となって新象作家協会を創立している。岩手県大槌町に生まれた岩間は、遠野地方に伝わる逸話を記した『遠野物語』¹⁶や、岩手県北上市周辺に伝わる伝統芸能である鬼剣舞(おにけんばい)をテーマとして制作に取り組んでいる。それを

絵画だけでなく、壁画、彫刻、ステンドグラスなど多様な表現を展開した。¹⁷この見解に付け加えて、道北が初期に出会っている吉加江京司(1909-1993)の存在も忘れてはいけない。改めて振り返ると、たとえば「十字架のある風景」吉加江京司(1977年・宮崎県立美術館蔵)の、赤・黒・青といった不穏な色調や十字架を思わせる交差する線の配置などは、「争淨」道北昭介(1987年・個人蔵)と比較すると、描写への影響を見てとることができる。

また、今回の所蔵品展開催をきっかけに、高鍋町在住の美濃力氏よりご自身が所有している道北作品を見せていただく機会を得た。道北昭介画集のなかでも、晩年にひょうすんぼう(河童)をモチーフとして絵画や陶芸に取り組んだ記述¹⁸がある。今回見せていただいた作品はそのシリーズの一つであることが分かる。そして、彫刻家の田中等氏より二土会の当時の資料を見せていただく機会を得た(資料1,2)。これにより、『道北昭介画集』にある「萱嶋則松氏等」の記述が、萱嶋秀樹と則松喬であることが判明した。¹⁹このように、展覧会を開催することで、新しい出会いや発見を得ることがある。今後も調査を続けることで、前述の疑問や仮定に対する情報が得られることも期待できる。



資料5

「河童集会図」道北昭介(1967年)

美濃力氏蔵

おわりに

本所蔵品展の開催における趣旨は当初、作家の調査を改めて行うことで個々の年譜がより網羅されること、および作家双方の特徴が浮き出てくることへの期待であった。当然、そのような結果は得られたのだが、その他にも複数の発見と新たな課題を得た。作家のつくりだす作品には、それぞれの時代背景があり、また美術史上のどの部分に作家が共感したかといった検証が重要であるが、現状では充分になされていないという課題が浮上したのである。たとえば、道北が土シリーズのなかで社会批判の対象とした「農業」の問題を挙げができる。これは高度経済成長などによって農村社会が崩壊の危機にあったという時代背景がある。前述の「九州派」の活動が活発であったという時代背景についても同様であるが、九州派についての記述は現在の時点では出てきていない。このようなことを敢えて本稿に記しているのは、今回取り上げた二人が、一定の世代から上の方々には記憶の残っている現代である一方で、筆者の世代はすでに生前の二人にお会いできていない世代となっているという現状に立ちはだかったからである。

生前、辻野は画家の村井正誠に評価され、道北は美術評論家の谷口治達や田中幸人に評価されている。それほどの画家たちであったにも関わらず、近年注目される機会が減っていることは否定できない。美術館の使命の一つに「人類共通の遺産を未来へと継承する」²⁰責任がある。そして、作品を保管することはもちろんだが、計画的に発信し、再評価・再発見を繰り返していくことが重要である。次の世代である私たちは、「現代」を「美術史」として、「作品」を「文化財」として認識していく気概は足りているだろうか。筆者は今後も西都・児湯を中心とした作家・作品について調査研究し、多角的な視野から究明していきたい。またそれが、地方の美術館の在り方を考察していくうえでのひとつの手がかりとなることを願っている。

¹ 2000年に当時の館長・土公武二郎、係長・稻井義人との手紙のやりとりのなかで同封された自筆の年譜による。

² 「新人国記続 ふるさと群像<30>」朝日新聞、1983年5月22日付け、19面

³ 『月刊 美術評論』美術出版社、1979年8月号、“辻野精一個展(第7回)”

⁴ 『道北昭介画集』道北昭介画集出版実行委員会、1996年、p. 69 “1963年 この頃福沢一郎画伯と出会いその後師事をうける。”

⁵ 同上、道北昭介画集出版実行委員会、1996年、p. 70 “久保吉文氏(独立美術会員)を中心に萱島則松氏等の日曜画家約20名程で毎月第二土曜日に集まるので二土会と名づけた。”

⁶ 同上、道北昭介画集出版実行委員会、1996年、p. 4 “道北昭介の絵画”谷口治達

⁷ 『西日本あすの百人<九州朝日放送報道部編>』1974年、p. 181 “画材はすべて農村 中央思考をはね返す<ダ・ギト>、土着文化 洋画家 道北昭介”

⁸ 前掲書、道北昭介画集出版実行委員会、1996年、p. 6 “道北昭介の絵画”谷口治達

⁹ 2000年に当時の館長・土公武二郎と係長・稻井義人との手紙のやりとりのなかで同封された自筆の年譜による。

¹⁰ 前掲書、道北昭介画集出版実行委員会、1996年 p. 72

¹¹ 2020年10月、電話での聞き取り(青井)。

¹² 2020年10月、杉山昭氏自宅でのインタビュー映像撮影(青井)。「オーラル・ヒストリー・アーカイブ」井上和裕・福富健男・杉山昭(映像)に収録。

¹³ 2020年10月、喫茶モケンでの井上和裕インタビュー映像撮影(青井)。「オーラル・ヒストリー・アーカイブ」井上和裕・福富健男・杉山昭(映像)に収録。

¹⁴ 2020年10月、萱嶋稔(高鍋町美術館館長)への聞き取り(青井)。道北は1960年代に土の塊を石膏取りすることを萱嶋稔に依頼している。萱嶋は道北のアトリエを訪れて石膏取りを行ったという。

¹⁵ 2020年12月、木城えほんの郷での聞き取り(青井)。黒木は中学時代に当時美術教諭であった道北と出会う。黒木が版画家として制作を開始したのも、交流は続いた。

¹⁶ 柳田國男『遠野物語』1910年

¹⁷ 『美術界年史(彙報)』東京文化財研究所 “新象作家協会設立(1957年11月)”

¹⁸ 前掲書、道北昭介画集出版実行委員会、1996年、p. 6 “1990年福岡市の村岡屋画廊で‘河童と遊ぶ’と題して個展を開いた。”谷口治達

¹⁹ 『第4回二土会 作品目録(50音順)』(資料3)と萱嶋稔(高鍋町美術館館長・萱嶋秀樹の長男)の情報提供による。

²⁰ 提言「21世紀の博物館・美術館のあるべき姿—博物館法の改正へ向けて」日本学術会議 史学委員会・博物館・美術館等の組織運営に関する文科会、2017年、p. 2

映像「オーラル・ヒストリー・アーカイブ」

井上 和裕（喫茶モルゲン店主）

福富 健男（文筆家・俳人）

杉山 昭（画家）

井上 和裕 いのうえ・かずひろ

1943(昭和 18)年、高鍋町に生まれる。

高鍋町にある喫茶モルゲン店主。

1971(昭和 46)年、モルゲンを開店。

以来、歌人や画家、美術評論家など、文化人の交流の場となっている。

・道北昭介について

井上「時代主義の人はダメかな。結局あの人は一匹ガミみたいで、寄らば大樹の陰(よらばたいじゅのかげ)とかそういうやつは嫌いで、」

井上「抽象画っていうのは 24 時間描いているのと同じだと。頭で使うから、他のと違って、だから俺は 24 時間働いているのと一緒にだと。だから作品を描き上げる、2 点ぐらいずつ描いてましたけどね。描きあげたら、時計がほら回りだしたって言ってました。そして限ができるんですよ、限が目に。やっぱ疲れるんですね。それで分からなかつたんですね、この病気になってるっていうのが、僕たちが見ても。普通はあんな顔を見ればどっか悪いなと思うけど、ショッちゅうっていうか、そういうの見てたから。」

・道北作品の制作方法について

井上「あれはですね、このテープをですよ、チップチって、ポンポンポンのせてですよ、いや貼りつけじゃない、そして点々があるけど、あれは庭から砂利を拾ってきて、ぴやっと撒いて、エーガンでスプレーでシュッシュッシュやって、あれなんかそうですよねスプレーですよね。」

・1975 年頃に制作されたといわれる土の塊の立体作品について

井上「あの頃、まだ鋤があって、あの田んぼを鋤くやつ、するとこうなんか、こう、何て言うか土の塊ができますよね、鋤くと。こんな四角いのを作つて、紐をかけてね、それを石膏であれしたのかな、あれはね東京都、東京都に対する嘲笑じやなかつたけど、お弔いの意味でやつたんですよ、奥さんが『そんなことしちゃダメよ』とか言つたけど。」

喫茶モルゲンの外壁デザインについて

井上「珈琲一杯ぐらいで、珈琲一杯ですよあれたしか、珈琲一杯で、赤字ですよ、絶対。」

青井「でもその、ペンキを塗つたりとかまではしてくださらなかつたんですね。」

井上「あれは僕が後で塗りました。そしてまたこれ後から塗りましたけどね大工さんが。だ

から新しいでしょ。」

青井「あつ、そうだったんですね。最初じゃあ井上さんが、」

井上「はい。」

青井「何か色の指定とかあったんですか?」

井上「ありました。だからどっかからペンを買ってきて、さきやまさん(向山金物店)かな、買ってきて塗りましたよ、こう筆で。一か所間違って、ちゃんと間違っています今も、二か所か一か所か。」

青井「それ、間違ったのは、なんでわかったんですか?」

(道北はデザインの指示を黄色のチョークで直接書いたという)

井上「先生から言われた。お前これここじゃねえか。その白地に黄色だから、あんまりこう見えなかつたんです。で見えたならなるほどと。ちょっと見てみます?」

青井「あ、見たいです。」

井上「――――、350円ですよ。いやそれは聞いたんですけどね、こんなところにねぱーっと描いてあつとね、ついつい分からんで。僕もその絵心とかそういうものがあれば、これをこうちゃんとするんでしようけどね。そういうの無いから、でもあの、あれはおかしいこうじやないかって言われて、すいませんでしたって、それで」

青井「おわり」

井上「こだわりないからこの人は、そういったところありましたよ、あの難しいわりにはね」

福富 健男 ふくとみ・たけお

1936(昭和 11)年、宮崎市に生まれる。

1958(昭和 33)年、宮崎大学農学部卒業。

1960(昭和 35)年~1995(平成 7)年 宮崎県農政水産部に勤務。

1968(昭和 43)年から 1 年間アメリカ合衆国に農業研修生として派遣され、滞米中にロサンゼルスの画家・八島太郎と出会う。

1963(昭和 38)年、俳句を始める。

瑛九、大野重幸、道北昭介などの画業について執筆している。

『道北昭介画集』(1996/平成 8 年発行)編集委員。

『道北昭介 絵画の世界』(2006/平成 18 年発行)著者。

福富「本当に知ったのはな、あのあっこに行く前から知つちよつた、あの高鍋の児湯農林振興局に 2 回目行ったでしょ、そのときは、そのときまでは会ったことはなかったです。道北さんの評判はもっと別のほうからも入ってたんですけど」

福富「その日から、それからはもうあっこに泊まつたり、」

青井「あっ、ひょうすんぼう（つるや旅館）ですか？」

福富「ひょうすんぼう（つるや旅館）に泊まって、あっこでの農政関係をですね、高鍋の役場の人達はあっここの店にきて、あっこで協議会みたいな話し合いをしちょったんですよ、技術委員会みたいな。であっこで、一生懸命道北さんのあの道北さんの奥さんもでてくる、道北さんもでてくる、で私初めてだから、」

福富「土の祭りだとか、ひとつのテーマが、なんであんなテーマになってるのかという、ことはもうあの人人が農政のこと、SAP (Study for Agricultural Prosperity/農業繁栄のための学修) やらのこと知らんかったら、児湯の農業のことを知らんかったら、あの人の絵はできあがってないと思いますね。」

福富「あの農家のまわりにおったから、田んぼが瘦せきってるとか、どう知ったかは知らんけど、土がものすごく大事な問題じゃということを直に感じたんじゃないかな、それをひとつのテーマにしたんだねあの人は。」

福富「行ったころな、トラクターが、クボタとかのトラクターが、歩いて動かすトラクターがあるでしょ、うわーたぶん農家の人はそんなの欲しくてたまらんわけですよ、乐するでしょ、いつもあれ牛とか馬をつかってやるよりか。そんなひとつの背景、農業が機械化したというのが、大きな背景です。農業の背景が、そんなことがだつと分かってないとな、道北さんの作品はなんなかということが本当に理解できんとやないかねと思いましたね。」

・画家・道北昭介の特徴

福富「やっぱあの人はな、絵描きと言えばなんでもこう形に、造形化すれば出来上がるもんだと思っちょるけどね、あの人はたぶん、一番身近にあるものをね、やっぱ見ようとしたと思う。まあ第一ですよこれ、初期です、初期の段階。まあ北浦におったわね、小学校に。あの時は貝がらみたいな、海のものを描いてるし、あの沖縄にいったら、沖縄のあの拉致民じゃないけど、あんなもの描いたり、やっぱり現実をまず、一番大事な部分として現実を大事にしたんでしょうね。それがまあ、それが無かったら、俳句の場合もそうやけど、それが無かったら先には進まんですね。現実の自分が生活しているそういう状況。状況を、奥さんがおる、魚がおる、稻がある、そういうものが、そういうものを切り崩す、まずそういう現実を、自分のまず身近にある現実をとらえようとした、それが無かつたらもう駄目ですね、…だったと思うんですよ。あの、絵描きって、自分でなんかねできるかと思っちょるけどな、そうやないんよな。絵描きを、他の先生の絵を見るとまあ自分で何かする絵が多いのよ。社会的なものを受け入れる、これを吸収して絵にしようという作品が何人おるやろうか。あの社会的な影響ですよ、社会的なものを取り入れるという、作品に取り入れるといったときに、道北さんはやっぱ、黒い雨も描いてる、原発の問題、沖縄の戦後のことも描いてる。それと同じように、宮崎県の農政のこと、同じ課題やから、同じもののように取り入れて描いたんじゃないですか。だからそれがやっぱ道北さんの吸収力じゃないやろうか。そら先生についちょつて、先生から習えばできるもんじやないもんな、あの短歌もそうでしょうけどよ。だからな

吸収力、社会と接しながらその接点で自分の置かれている場ももちろんふまえながら、あの影響を受けて、交流ですね。僕は俳句もそう思つちょっとやけど、交流がなければ駄目やと思う。

杉山 昭 すぎやま・あきら

1927(昭和 2)年、西都市に生まれる。

1951(昭和 26)年から日本水彩画会に所属。

1957(昭和 32)年から 1966(昭和 41)年まで水彩連盟に所属。

1958(昭和 33)年から独立美術協会に所属。

1989(平成元年)、第 23 回モンテカルロ現代美術国際賞出品。

1992(平成 4)年から辻野精一と同じモダンアート協会に所属。

1999(平成 11)年、文化庁第 33 回現代美術選抜出品。

サタケ亭の西都市居住期は何度も自宅へ足を運び、サタケが移住した後も親交を続けた。

1979(昭和 54)年には、ひまわり画廊(宮崎市)にて

杉山昭・坂本正直・川越彌録・辻野精一による 4 人展を開催している。

モダンアート協会会員推举

宮日総合美術展無鑑査

宮崎県文化賞芸術部門受賞

・モダンアート協会に入ったきっかけ

杉山「『杉山さん、あんたもうちの会員に入らんね』って言ってから、坂本さん(坂本正直)から勧誘されたときに、モダンアートやったかな、モダンアートに坂本さんがおった。そして僕もモダンアートに出すようになって、あとモダンアートはもうずっと続けて描きよって、そしてモダンアートの中で賞やなんかを獲って会員に早くなつたとよね。」

青井「川越彌録さん。」

杉山「あー。川越彌録さんね、その頃の宮崎の御大将ばっかりやろ。中にこっちがまだ若かつたけどね、あの一緒に仲間に入れてくれて、まあいろいろあったわね。」

・サタケ亭について

杉山「クリスチャンやつたのよね、だから非常にこう、あのなんていいうか人様には優しかった。普通はね写生をしたら、まあ写生したもん忠実にこう表現しようとするけど、サタケ先生はそれを壊して、いわゆる抽象画の描き方と同じようにこう、自由に色を変えたり形を変えたりして、そしてその自分の意思を表現しようとしたわね。」

杉山「最初見たときはびっくりして、ほんでもなんだんだんこう付きあっていつちよるうちに、なんだんサタ先生の絵のいいところがあの魅力になって、僕もそういうふうな描き方はじめたんじやね。僕も自分勝手な描き方で、」

青井「じゃあ、杉山さんが一番影響を受けたのはやっぱりサタさんですね。」

杉山「そうです。その頃ね、僕の絵に興味をもったのが、高鍋に金丸通夫ってのがおって、それの弟がよしかずというのが川南に住んどった。それがよく家にきよった。坂本さんは人がいいし、辻野さんだってあの人の悪口を言うような人じやなくてね、いい人だった。

というかこの絵を描いたサタ先生だって、もう最初はね、最初やっぱこうあの花と花の形がこうあったね、それがなんだんこう絵の具を消したよう、あの追加したりしてなんだん変つて、自分はこうしたほうが良い、こう思ったらこうしたほうが良いからって、なんだんそのサタ先生の気持ちが絵の上にこう現れてくる。だから他の人から見た時には分からんわけやね。でも僕なんかこう見てあの決してこんな絵でも悪いっていうあれは無いと思うね。」

・塩月桃甫について

杉山「古い図書館があったわね、あのあそこ、あそこの2階がね画廊になつちよつたの、でそこなんかねこの小さい作品を塩月桃甫さんは掛けてた、塩月桃甫さんは大きい絵は描いてない、ていうのはそのころはまだ絵の具がね、宮崎に充分なくて、アルト（画廊アルト/1950年代に宮崎市老松通公園前に所在していた）っていうところからまあ手に入りよつたらしいけども、あの東京の画材店がね、あの塩月桃甫さんの技量を考えてそして優先的に油絵の具をまわしてくれとつたらしい。だからそのころはね宮崎で贅沢に描きよつたのは桃甫さんくらいやつたね。」

・杉山作品の特徴

杉山「抽象の面白さっていう魅力はあったから、その抽象の面白さ、抽象っていうのはこれあのその人の考え方、感じしたことそういったもんはあの形とか色とか、そういったもので表現しようとして、現物見てからそれを写すっていうことはせんかったからね、そういったあのことはサタさんの場合もあったと思う。サタさんにもやっぱりあの最初はスケッチしてるのは、普通のあの抽象画じゃなくて具象的なかたち、ちょっとこう壊したようなやつだったけどね、それがどんどんどんどん変えていくうちに、サタ流の描き方になってきて、そういったことが影響して、あの今僕にもこうあるんじゃないかなと思って考えてる。僕もやっぱこんなしてから抽象的に描いちゃって、そしてそれからなんだん壊していくというそういういった描き方、そしてもう今ではもう画面と自分だけで、ああしようこうしようっていう、いろいろ形とか色とかそれからマチエールとかね、そういったものをこう組み合わせて自分なりに気にいったやつを描こうと、そういったところがまあ最初のうちはサタ先生の影響があったけども、だんだんだんだん僕はそれから離れて、自分なりの描き方になってきたっていう、そういうことじゃないかな。サタ先生も後になつたらやっぱりあのそういう形とか色と

か、あのそいつたものだけで、水彩だけでやっておられたよね大きいやつでも、僕の場合はもう、形とそれから色だけじゃなくて、マエール、そのころアクリルって絵の具はアクリルっていうのが流行ってきてました。水で溶いても油絵と同じような、でその絵の具があのきだしたもんだから、それを使っていくうちにだからマエールが僕の絵にはこう入ってくる。サイ先生の場合はまだ水彩だけの世界だった。そこがまあ似たところと違ってきたところじゃろうな。根本的なもんは、たしか絵に対するあの気持ちっていうのは同じだと思う。」

・交流のあった作家

杉山「これは、僕が若いときにもうかなりの年いってる人で近い人は、川越彌録さん、それからひまわり画材店に、」

青井「鳥原茂之さん。」

杉山「鳥さんとか、それから、誰がおったかな、もちろん坂本さんもよかったですし、あとはときどき顔をあわせておしゃべりをするぐらいのあれは、太佐豊春ってのがおったね。太佐豊春ってのは妻じやからね出身が、あの子はいい絵を、小さい版画みたいなね、あれ。だからそんな小さいやつやから作品を発表することもできなかったんやね。」

・当時のモダンアート協会の様子

杉山「そうね、モダンアートはやっぱりそのころの抽象画の中では良かったから、うちのなかには写実的な絵なんかもね描いてるのもおったけども、その絵もいわゆるその人なりに形を変えてね、まあペントン形になったりして、あの写真で撮ったような写実的な作品じゃないけども、あるんだよね、僕らみたいにいわゆる抽象画っていうのも、これはもう人数が多くたったね。まあ写実的な絵はやっぱり多くて、形が少し変わってきてるっていうのは坂本さんくらいやったね。坂本さんの絵もすこし具象的やから。」

青井「そうですよね。じゃあ、抽象をあの時代に描くということは、けっこうな勇気がいるというか。」

杉山「うん、もうだから人の噂とか、それから人の目っていうのは考えちょらんかったね、自分の絵だから自分で理解して、自分で満足すればいいわぐらいで、人がなんと思おうと知ったこっちゃないでな気持ちで作ってた。でも考えてみれば、それがやっぱり僕の個性が出た一つの要因じゃないかな、人のことなんか気にせんでからね、描いたっていうことが。」

※（）内は青井による補足

制作 高鍋町美術館

協力 井上 和裕、福富 健男、杉山 昭

この映像は、「交差する視点 辻野精一・道北昭介」

2020年10月24(土)~11月29日(日)のために制作されました。

(C)高鍋町美術館 2020

辻野 晴一 年譜

大正 9	0 歳	高鍋町にて長男として生まれる。
昭和 7	12 歳	福岡日日新聞コンクールで銅賞を受賞する。
昭和 13	18 歳	高鍋農学校（現・県立高鍋農業高校）を卒業。卒業後、朝鮮の穀物検査所郡山支所に勤務。
昭和 14	19 歳	帰郷して鹿児島地方専売高鍋酒精工場に勤務する。この頃画家志望だったが家族の反対にあい断念。
昭和 16	21 歳	満州国の三江省鶴国にあつた高山組（建設業）に勤務する。
昭和 19	24 歳	満州国で召集。終戦後に滿鉄（南満州鉄道）に入る。
昭和 21	26 歳	帰国して県地方事務所に勤務し、供米業務を行う。
昭和 25	30 歳	宮崎県庁に勤務。その後、県本庁に勤務となり、経済部・総務部・土木部に所属する。
昭和 28	33 歳	油絵の具セントを買う。この頃、県庁職員絵画グループに入る。
昭和 29	34 歳	宮崎県美術展に初出品・初入選。
昭和 36	41 歳	宮崎県美術展にて奨励賞受賞。
昭和 37	42 歳	石橋美術館（福岡県久留米市）にて第5回西日本洋画新人秀作展に出展。 鹿児島市立美術館にて九州美術選抜展に出展。
昭和 39	44 歳	朝日賞全九州油絵コンクール（朝日新聞西部本社）にて入賞。 モダンアート協会展にて初入選。
昭和 40	45 歳	宮崎県旗制定を担当する。 全国県展選抜展に出展。
昭和 41	46 歳	宮崎県美術展にて奨励賞受賞。 主催美術協会展に出展。
昭和 42	47 歳	橘百貨店大ホール（宮崎市）にて初個展「第一回辻野晴一個展」。
昭和 43	48 歳	文化庁県選抜展（東京都美術館）に出展。 宮崎県立図書館に「鎧の語らい」（100号）を収蔵。
昭和 44	49 歳	宮崎県美術展にて「城主の装い」が奨励賞受賞。 モダンアート協会会友に推薦。
昭和 45	50 歳	第3回宮崎美術家集団展に参加。 朝日西部美術展（朝日新聞西部本社）に出展。
昭和 46	51 歳	石橋美術館（福岡県久留米市）にて西日本洋画新人秀作展に出展。 宮崎県美術展にて特選受賞。 西日本美術展（西日本新聞社）入選。 社団法人日本美術家連盟会員となる。 宮崎県美術展にて奨励賞受賞。 宮崎大学図書館増築記念展に出品「真夏の奥地林道」（100号）寄贈。 県総合博物館記念展に出品。

1920

1940

1950

1960

昭和 47	52歳	現代九州沖縄洋画展（九州文化協会）に選抜展出。 宮崎県美術展特選（宮日賞）受賞。 宮崎市役所が「白い道」（100号）を買い上げ収蔵。 宮崎県美術展で「面（おもて）Ⅲ」が特選受賞。無鑑査となる。 モダンアート協会会員となる。 この頃、伎楽面（ぎがくめん）シリーズを取り組む。辻野の母が宮崎市神宮の生まれで、舞や面に親しみがあつた。貝の粉を混入し、日本画を意識した作品づくりを行つた。
昭和 48	53歳	ひまわり画廊（宮崎市）にて個展。
昭和 49	54歳	県屋外広告物条例の全面改正に取り組む。
昭和 50	55歳	橋百貨店（宮崎市）にて宮崎市市制50周年記念宮崎市総合美術展に出品。 宮日無鑑査会員による日日展を開立。会員となる。
昭和 51	56歳	東京都美術館にて市民會議主催の第1回東京展に出品。 ひまわり画廊（宮崎市）にて個展。
昭和 52	57歳	妻死去。農林中央金庫ロビー（宮崎市）にて追悼個展。
昭和 53	58歳	宮崎県庁を退職。退職後、絵画に専念する。 機画廊（東京都）にて道北昭介と二人展。
昭和 54	59歳	東亜画廊（福岡県福岡市）にて個展。 この頃、平面の組み立てによる構成のシリーズに移行する。 機画廊（東京都）にて個展。
昭和 55	60歳	この個展での作品を村井正誠（画家）より「床板スタイル／板屏風景」と評される。 ひまわり画廊（宮崎市）にて作品4人展（杉山昭・坂本正直・川越彌綱・辻野精一）を開催。
昭和 56	61歳	宮崎県美術展運営委員を務める（2年間）。
昭和 57	62歳	「毎日グラフ（6—7月号）春の公募集」に掲載される。
昭和 58	63歳	この頃、ジョアン・ミロに心酔する。
昭和 59	64歳	「瑛九に学び何年たつても腐らないよい絵を描き残したい」と発言する。 (朝日新聞 1983. 5. 22)
昭和 60	65歳	置具百年記念郷土作家美術コレクション展に出品。 宮崎県総合博物館が「人間模様」（130号）と「伎楽面」（100号）を収蔵。
昭和 61	66歳	県立高鍋農業高校創立80年記念展に出品。格技室にて100号の大作を38点展示する（版画家・金沢一生も出展）。
昭和 63	68歳	身体障害者3級（両頭全摘）となる。 スコットランド・ダンテー市にて欧洲美術クラブ・現代日本絵画代表作家展に出品。
		宮崎市役所が「青島」（15号）を買い上げ収蔵。 山形屋百貨店（宮崎市）にて個展「日向の黒潮と山々」。

1970

1980

平成 3	71歳	都城市立美術館にて選抜秀作絵画展に出席。 ひまわり画廊（宮崎市）にて個展「ピクトーロー・ペーク」を開催。 この頃、抽象画で紙（主に和紙）を使った表現へと移行する。
平成 4	72歳	都城市立美術館にて個展。
平成 12	81歳	宮崎市において没。

2000

1990

道北 昭介 年譜

昭和 5	0 歳	高鍋町にて二男として生まれる。
昭和 11	6 歳	高鍋尋常高等小学校入学。
昭和 17	12 歳	高鍋国民学校卒業。県立高鍋中学校入学。
昭和 22	17 歳	県立高鍋中学校卒業。高鍋町農業会書記嘱託を命ぜられる。
昭和 23	18 歳	同農業会書記嘱託を解かれる。
昭和 24	19 歳	児湯郡川南村立山本小学校の助教諭に採用される。
昭和 26	21 歳	宮崎県学校教員退職。宮崎大学学芸学部入学。
昭和 27	22 歳	宮崎大学学芸学部2年過程を修了、小学校教諭2級免許を取得する。
昭和 28	23 歳	県立盲学校延岡分校教諭に採用される。
昭和 29	24 歳	吉加江京司夫妻の媒約により大分県南海部郡上入津村出身の高羽里枝と結婚。
昭和 30	25 歳	延岡市立東海中学校に転勤。
昭和 32	27 歳	延岡市立岡富中学校に転勤。
昭和 33	28 歳	第4回めだかの発表会。宮崎相互銀行3階ホール（延岡市）にて小品展。 どんぐり児童画研究会の発表会もあわせて開催。
昭和 34	29 歳	延岡市土々呂小学校に転勤。 宮崎相互銀行ホール（延岡市）にて開催されたアンクトグループ展に出品。 小原会館（東京都）にて第1回新象作家協会新象展に出品。 この頃、幸寿（画家）と出会い交流が始まる。
昭和 35	30 歳	宮崎相互銀行ホール（延岡市）にて開催されたアンクトグループ展に出品。 山形屋（宮崎市）にて美術集団フェニックス展に出品。 東京都美術館（東京都）にて第2回新象作家協会新象展に出品。 大阪市立美術館（大阪府）にて新象作家協会展に出品。
昭和 36	31 歳	東京都美術館にて第3回新象作家協会新象展に出品。 村松画廊（東京都）にて新象作家協会春季展に出品。 宮崎相互銀行ホール（延岡市）にてアンクトグループ展に出品。 東京都美術館（東京都）にて第4回新象作家協会新象展に出品。 アズマヤ百貨店（延岡市）にて初めての油絵個展。 妻・里枝の郷里である龍洲草薙の陶芸と合同展。
昭和 37	32 歳	東京都美術館（東京都）にて第5回新象作家協会新象展に出品。
昭和 38	33 歳	東京都美術館（東京都）にて第6回新象作家協会新象展に出品。 新象作家協会会員となる。
昭和 39	34 歳	この頃、福沢一郎（画家）と出会い、その後師事する。 北浦村立北浦小学校に転勤する。
昭和 40	35 歳	東京都美術館（東京都）にて第7回新象作家協会新象展に出品。 高島社（東臼杵郡北浦村古江）にて教師時代最後の小品展。 東京都美術館（東京都）にて第8回新象作家協会新象展に出品。 旭化成恒富供給所（延岡市）にて個展。

1950 1940 1930

1960

昭和 41	36 歳	東京都美術館（東京都）にて第9回新象作家協会新象展に出品。 北浦小学校を退職し家業（つるや旅館）を継ぐことを決める。 高鍋町公民館講座絵画教室講師を委嘱される。
昭和 42	37 歳	宮崎銀行高鍋支店ホール、高鍋信用金庫ホールにて高鍋町文化団体「土会」公募の第1回美術展覧会を開催。久保吉文（独立美術会員）を中心に青嶋・則松等の日曜画家約10名程度で毎月第一土曜日に集まるので、「土会」と名づけた。 植村鷺千代、幸寿、岩間正男が審査員として加わる。 高鍋東小学校にて「土会」主催による植村鷺千代美術講演会を開催。
昭和 43	38 歳	県立図書館にて個展。鹿児島銀行延岡支店2階ホールにて個展。 東京都美術館にて第10回新象作家協会新象展に出品。
昭和 44	39 歳	青木画廊（宮崎市）にて個展。高鍋町中央公民館にて第2回「土会」展覧会開催。 植村鷺千代、幸寿、岩間正男が審査員として加わる。
昭和 45	40 歳	青木画廊（宮崎市）にて個展。高鍋信用金庫本店にて個展。 東京都美術館にて第11回新象作家協会新象展に出品。
昭和 46	41 歳	宮崎銀行高鍋支店ホール、高鍋信用金庫にて第3回「土会」展覧会を開催。 植村鷺千代が審査員として加わる。 東京都美術館にて第12回新象作家協会新象展に出品。
昭和 47	42 歳	高鍋町中央公民館にて第4回「土会」展覧会を開催。 親父のあつた松丸志摩三（農業評論家・畜産学者）、児湯郡高鍋町に移住。
昭和 48	43 歳	東京都美術館（東京都）にて第13回新象作家協会新象展に出品。 西日本新聞に49回にわたり連載された。 松丸志摩三（農業評論家・畜産学者）の農村隨筆「秋雲雜記」のカットを制作する。 鹿児島銀行延岡支店ホールで個展。

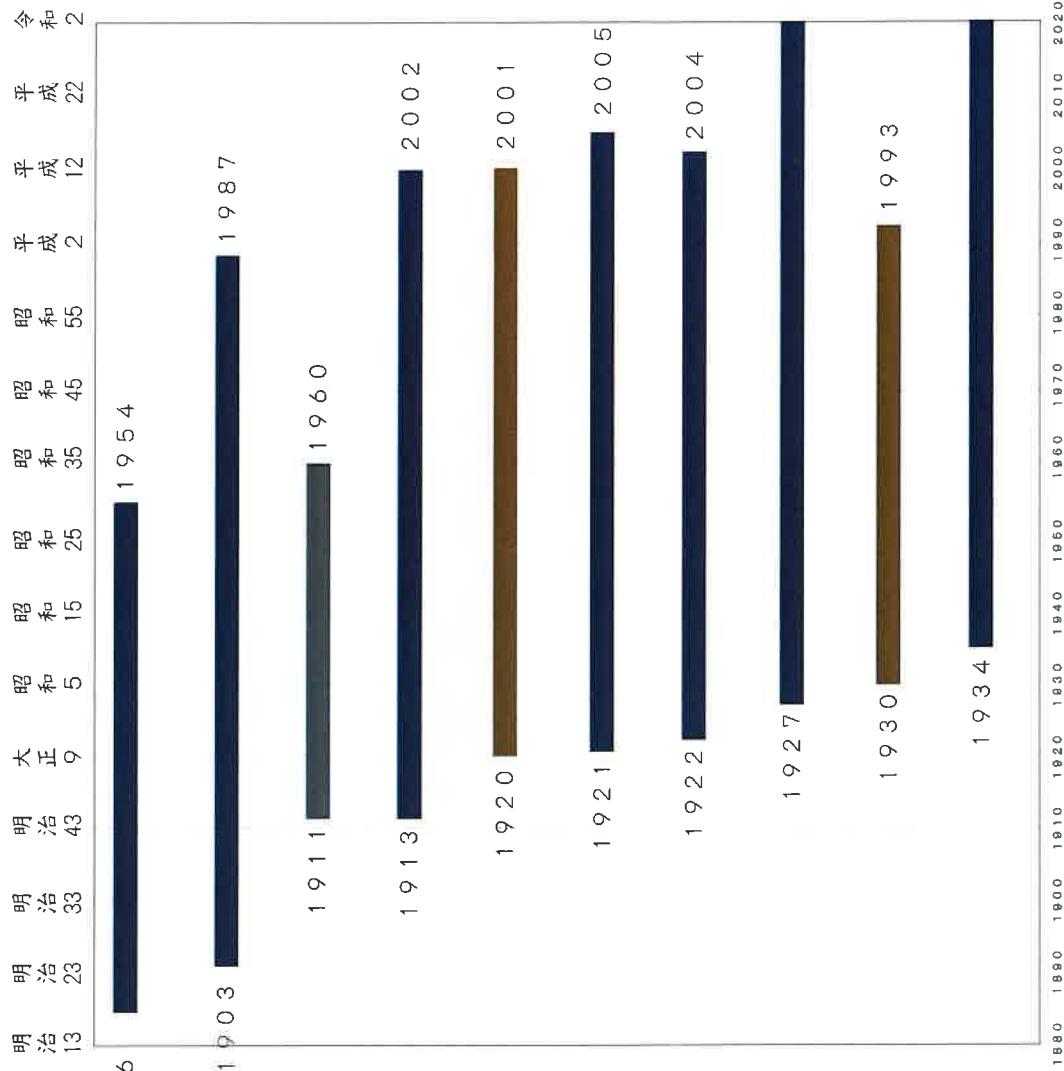
1970

昭和 49	44歳	<p>福岡県文化会館（福岡県福岡市）にて西日本新聞谷口治達、毎日新聞田中幸人、フクニチ新聞深野治が発起人となつた九州現代美術「幻想と實念」展に出品する。この頃より田中幸人と知合い親交を深める。</p> <p>喫茶店ウルワシ（宮崎市）にて個展を開催。</p> <p>九州朝日放送の「西日本あすの百人」に選ばれる。「西日本あすの百人」（九州朝日放送報道部編）に掲載。</p> <p>高鍋町中央公民館にて、松丸まさ子、山本陽二、山下惣一、瀧谷清明、中谷健太郎らと企画して「里の会」を設立。</p> <p>東京都美術館（東京都）にて第17回新作家協会新象展に出品。</p> <p>福岡県教育センター短期研修の講師として招かれ、「農山村兒童の絵画表現」を内容として話す。</p> <p>航空自衛隊新田原基地の絵画部の発足と文化活動に尽力したことで、新田原基地司令より感謝状受ける。</p> <p>「里の会」による『里』（松丸まさ子発行、山本陽二編集）の創刊号が発刊。この頃より椎叢猛（文芸家・詩人）と知合い、親交が始まる。</p>
昭和 50	45歳	<p>東京都美術館（東京都）にて第18回新作家協会新象展に出品。</p> <p>懇話廊（東京都）にて第3回東京個展。</p> <p>ギャラリーおいし（福岡県福岡市）にて個展。</p>
昭和 51	46歳	<p>東京都美術館（東京都）にて「東京展」市民会議主催の第1回東京展に出品。</p> <p>東京都美術館（東京都）にて第19回新作家協会新象展に出品。</p> <p>高鍋町文化祭絵画の部に出品する。</p>
昭和 52	47歳	<p>青木画廊（宮崎市）にて小品展。県立都農高校非常勤美術講師を委嘱される。</p> <p>東京都美術館（東京都）にて第20回新作家協会新象展に出品。</p> <p>北九州市立美術館（福岡県北九州市）にて九州新作家協会新象展に出品。</p> <p>アズマヤ百貨店ホール（延岡市）にて個展。</p>
昭和 53	48歳	<p>都農高校非常勤講師嘱託を解かれる。</p> <p>懇話廊（東京都）にて辻野精一と二人展、第4回東京個展。</p> <p>東京都美術館（東京都）にて第21回新作家協会新象展に出品。</p> <p>東亟画廊（福岡市）にて辻野精一と二人展。</p>
昭和 54	49歳	<p>北九州市立美術館（福岡県北九州市）にて第7回九州新作家協会新象展に出品。</p> <p>西日本新聞発行の『九州のかだら「眼鏡橋・西洋建築』（太田静六編）に「日南飯田医院界隈」を執筆。高木画廊（鹿児島県鹿児島市）にて個展。</p> <p>川南幼稚園（川南町）の非常勤講師に委嘱される。</p> <p>東京都美術館（東京都）にて第22回新作家協会新象展に出品。</p> <p>高鍋ユネスコ協会が設立され会員となる。</p> <p>ギャラリーおいし（福岡県福岡市）にて個展。北九市立美術館（福岡県北九州市）にて第8回新作家協会九州新象展に出品。</p>

1980

昭和 55	50 歳	青木画廊（宮崎市）にて個展 櫻画廊（東京都）にて第5回東京個展 木城町絵画教室講師を委嘱される。新作家協会を退会する。 日本美術連盟会員となる。 毎日新聞（夕刊）に「奇像たちと岩閣老人のこと」と題して執筆。 訪中団員として妻・田枝と中国を訪ね香港、広州、桂林において絵画研修。 東京都美術館（東京都）にて林紀一郎企画「現代日本マニエリスム展」に出品。 喫茶店再会（高鍋町）にて個展。青木画廊（宮崎市）にて個展。
昭和 56	51 歳	東京都美術館（東京都）にて A J A C (ALL NATIONS & JAPAN ARTISTS' CO-OPERATION) 主催の林紀一郎企画「精神の幾何学展」に出品。 ヨシムラ画廊（小林市）で個展 ガラス絵を出品する。宮崎市青木画廊において個展。 加根又画廊（鹿児島県鹿児島市）にて個展。
昭和 57	52 歳	加根又ギャラリー・シャンブル（鹿児島県鹿児島市）にて個展。 東京都美術館（東京都）にて A J A C 主催による「ヒューマニズム復権展」に 出品する。 延岡市緑ヶ丘学園高校の非常勤講師に委嘱される。 宮崎県精神衛生協議会の精神衛生事業の推進に仄くしたて受賞される。 コンコルド画廊（小林市）にて個展（ガラス、版画、油彩）。
昭和 58	53 歳	ヨシムラ画廊（小林市）にて個展。 東京都美術館（東京都）にて A J A C 主催の上原一郎企画「豪爽する現代日本 美術展」に出品。
昭和 59	54 歳	青木画廊（宮崎市）にて個展。
昭和 60	55 歳	奥本モルゲン（高鍋町）にて小品展。櫻画廊（東京都）において個展。 東京都美術館の A J A C 創立10周年記念「今日の日本美術展」に出品。
昭和 61	56 歳	青木画廊（宮崎市）において瓢寸展。 青木画廊（宮崎市）において個展。中国研修旅行。
昭和 62	57 歳	香港、広州、桂林において絵画研修。ひまわり画廊（宮崎市）で遠北昭介、 倉智憲夫企画の A J A C 展開催。 西日本新聞連載の山下惣一の農村随筆「何かが狂つくる」のカットを始める。 4月1日より5月14日まで27回にわたって連載される。 東京都美術館（東京都）にて A J A C 展で特別陳列作家として出品し 「不快な夏日」で特陳作家賞を受賞する。埼玉県秩父、東北地方の平泉、松島、 羽黒、月山、湯殿など奥の細道の跡を訪れる。 青木画廊（宮崎市）において個展開催。

西都・児湯ゆかりの抽象画家たち
明治 13 明治 23 明治 33 明治 43 明治 53 大正 9 昭和 5 昭和 15 昭和 25 昭和 35 昭和 45 昭和 55 昭和 55 平成 2 12 平成 22 令和 2



1880 1890 1900 1910 1920 1930 1940 1950 1960 1970 1980 1990 2000 2010 2020

職 員(令和 2 年度)
館 長 萱嶋 稔
副 館 長 内田 美香
<総務学芸係>
係 長 田中 和樹
学芸員 青井 美保
事務員 橋 慧子
英 訳 マシュー・ギャレット

辻野精一・道北昭介 交差する視点
展覧会会期 2020 年 10 月 23 日(土)~11 月 29 日(日)
主 催 高鍋町美術館・高鍋町教育委員会・高鍋町

テヅシタルアーカイブ
制 作 高鍋町美術館

令和 3 年 2 月印刷
令和 3 年 2 月発行
発行者 高鍋町美術館
宮崎県児湯郡高鍋町大字南高鍋 6916 番地 1
TEL(0983)23-8887
印刷者 高鍋町美術館
宮崎県児湯郡高鍋町大字南高鍋 6916 番地 1
TEL(0983)23-8887
